

科目名	ヴォーカルV							年度	2025
英語科目名	Vocal V							学期	前期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必/選	選	時間数	60	単位数	2	種別※	実技
担当教員	結城安浩		教員の 実務経験			実務経験の 職種		歌手、ヴォイス トレーナー	

【科目の目的】

より多くのジャンルの曲を使って、グループでの歌唱とソロパートの歌唱を実践する。また、観客の前で歌うことを想定し、身体を使っての表現も行っていく。

【科目の概要】

様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表する。

【到達目標】

身体全身を使った声のためのトレーニングを積み重ねることにより、これまで、口先や喉を多用してきた声、不自然に作った声、ただがむしゃらに出してきた声、音楽にのって自己満足で歌ってきた声、自信を失くしたか細い声、等がどのように変化したかを自覚することができる。さらに、課題曲の発表を通して、作品表現としての自分の歌声を、客観的に捉えられるようになり、自己分析できるようになる。

【授業の注意点】

授業態度（特に居眠りや私語）に関してはかなり厳しく対応する。また、連絡のない遅刻・欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することはできない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力
到達目標 A	腹式呼吸を意識し、安定した発声ができる。高低差、強弱、速度を自在に操り、幅広い表現が可能。	腹式呼吸を意識し、安定した発声ができる。高低差、強弱、速度をある程度操ることができる。	腹式呼吸はできるが、安定した発声は難しい。高低差、強弱、速度の調整が不十分。	腹式呼吸ができていない。声量や音質に課題がある。	発声の基本的な知識が不足している。
到達目標 B	言葉の詰まりや早口がなく、聞き取りやすい発音ができている。	言葉の詰まりはほとんどなく、聞き取りやすい発音ができている。	言葉の詰まりがやや見られる。一部の言葉が聞き取りにくい。	言葉の詰まりが多く、聞き取りにくい部分がある。	基本的な発音ができしていない。
到達目標 C	広い音域で、安定した高低差を表現できる。	ある程度の範囲で高低差を表現できる。	高音や低音が出にくい、または不安定。	高音や低音の高低差が少なく、表現の幅が狭い。	高音や低音の高低差を表現できない。
到達目標 D	言葉の強弱を効果的に使い分け、感情を表現できる	言葉の強弱をある程度使い分けられることができる。	言葉の強弱を理解しているが、感情表現が乏しい。	言葉の強弱が単調で感情表現が乏しい。	言葉の強弱をつけることができない。
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い

【教科書】
レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】
小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		ヴォーカルV			年度	2025
英語表記		Vocal V			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	歌の上達方法と歌の細分化について	歌の基礎を理解	歌の基礎知識	歌唱に必要な呼吸法の実践		
			歌の細分化	歌の細分化の実践		
			発声練習	発声の安定化		
2	個別ミーティング	歌唱レベルの確認	現在の能力について	現在の能力の確認		
			レッスンの目的	歌唱レッスンの目的の理解		
			将来の目標の共有	歌唱力の向上		
3	リズム感とは何か?	リズム感の重要性の理解	リズムの基礎知識	リズムの基礎知識の理解		
			バウンストレーニング	リトミックトレーニングの実施		
			リズム感について	リズム感の向上		
4	歌における母音の重要性、子音の種類と特性	母音と子音の重要性を理解	母音の重要性	母音と子音の役割を理解		
			母音と子音の組み合わせの練習	滑舌の向上		
			母音と子音の組み合わせの練習	表現力の向上		
5	母音フォームの構築、舌根トレーニング	発音の改善	母音フォームの理解	母音フォームの習得		
			舌根トレーニング	舌根コントロールの習得		
			発音の改善練習	母音と子音の正確な発音		
6	スクエアとシャッフルの感じ方の違い	リズム感を養う	スイングとシャッフルの解説	スイングとシャッフルの違いを理解		
			リズムトレーニング	リズム感を養う		
			音楽に合わせて歌う	音楽のリズムに合わせて表現		
7	ブレスで作るテンポとグループ	歌の表現力を高める	呼吸と音楽の関係性	呼吸と歌の関係性を理解		
			グループの感覚	グループの感覚を掴む		
			呼吸を使った表現技法	歌の表現力の幅を広げる		
8	腹式呼吸と胸式呼吸の違いとその特性	全肺気量、肺活量、残気量、予備呼吸量について	腹式呼吸と胸式呼吸の違い	呼吸のメカニズムを理解		
			肺活量に関する知識	適切な呼吸法を選択		
			呼吸法の練習	呼吸法をの実践		
9	呼吸筋の主な種類とトレーニング方法	肺活量の増やし方とブレスコントロール	呼吸筋の種類と役割	呼吸のメカニズムを深く理解		
			肺活量を増やすためのトレーニング	肺活量の向上		

				ブレスコントロール	ブレスコントロールのマスター		
10	オンビートとアフタービートのブレス	オンビートとアフタービートの概念を理解		オンビートとアフタービートの解説	オンビートとアフタービートの理解		
				呼吸とリズムの連動	呼吸とリズムの連動		
				様々なジャンルの音楽への応用	音楽の幅広い表現		
11	ブレスと発声の関係 (ホールドの重要性)	ポジションという考え方の理解		呼吸と発声の連携	呼吸と発声の連携を理解		
				ポジションの概念	ポジションの重要性を理解		
				ブレスと発声の関係	ホールドの重要性の理解		
12	音の捉え方	現在のレンジの認識と拡張		重心のコントロール	重心のコントロールの実践		
				体幹の安定	体幹を安定させ発声できる		
				レンジの把握と拡張	現在のレンジの認識と拡張の実践		
13	声区の認識とレンジによってのポジションの取り方	発声の準備		声区を理解	自分の声区を理解する		
				ポジションの重要性	ポジションの重要性を理解する		
				発声の準備	発声の準備の実施		
14	上昇するメロディー、下降するメロディーのそれぞれのポジション	メロディーのポジション		メロディーのポジションの概念	メロディーのポジションを理解		
				メロディーのポジション	ポジションを意識した歌唱		
				実際の曲を用いた練習	ポジションを意識した表現力の向上		
15	実践的なブレスプランとポジションの構築	課題曲のメロディーの歌唱		課題曲の分析	総合的な歌唱力の向上		
				ブレスプランの構築	ブレスプランの構築の実践		
				ポジションの調整	課題曲のメロディーの歌唱		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							